

フリーフローターTG
施工要領書

フクビ化学工業株式会社

(目 次)

1. 適用範囲	2
2. 製品概要		
2-1 工法概要	2
2-2 特長	2
2-3 参考納まり図	2
3. 材 料		
3-1 材質	3
3-2 専用工具	3
3-3 床高さ調整範囲	4
3-4 パネル規格	4
4. 現場フローチャート	5
5. 施工手順	6
6. 施工検査表	8

1. 適用範囲

本仕様書は「フリーフローア-TGシステム」の工事に適用する。

2. 製品概要

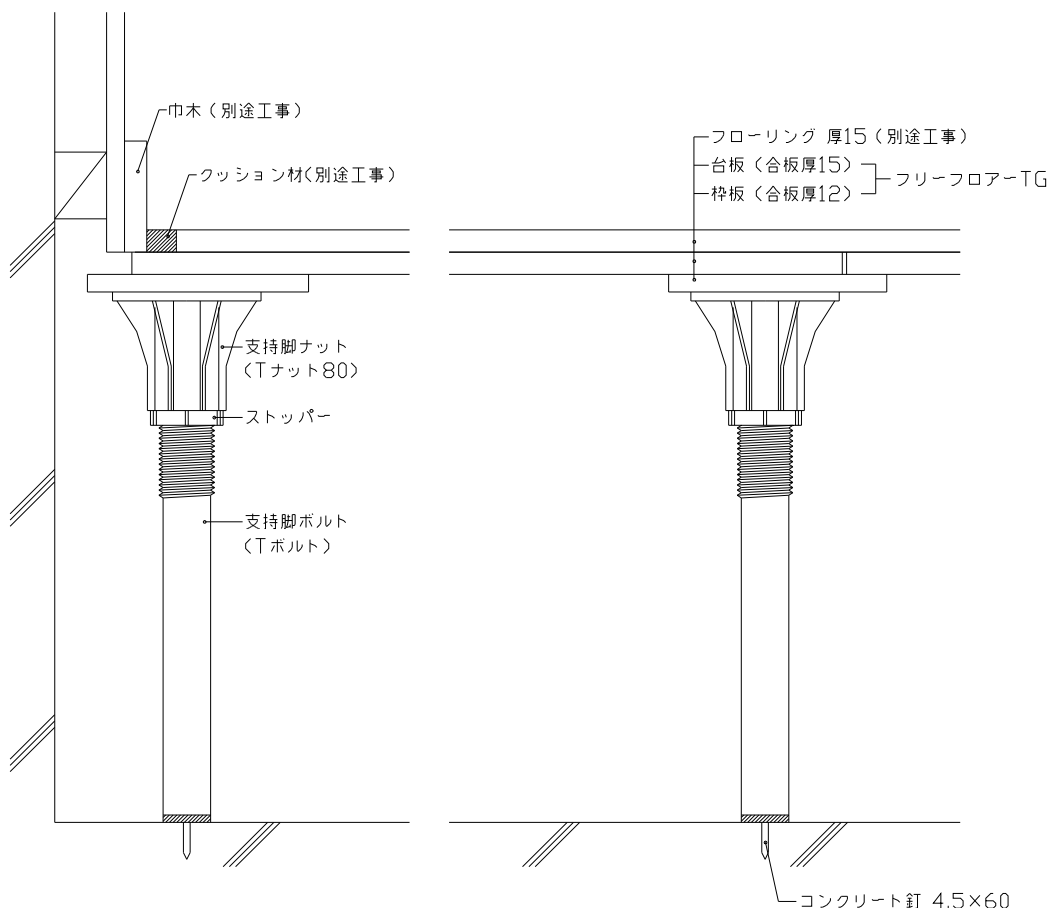
2-1 工法概要

「フリーフローア-TG」は樹脂製の支持ナットのついた床パネル（TGパネル）9種類からなり、その支持ナットに床高に応じた樹脂製支持脚（Tボルト）をつけて敷き込んで行き、床パネルの上からレベル調整し、専用のコンクリート釘で床スラブに固定して仕上げる工法です。

2-2 特長

「フリーフローア-TG」の床パネルは安全性に優れた薬剤使用した防腐・防虫・防蟻合板を使用しております。

2-3 参考納まり図



3. 材 料

3-1 材質

部 材 名		材 質	備 考
TGパネル (床パネル)	台板	防腐・防虫・防蟻処理 構造用合板Ⅰ類 F☆☆☆☆ 厚み15mm	・パネサイズ 9種類
	枠板	防腐・防虫・防蟻処理 構造用合板Ⅰ類 F☆☆☆☆ 厚み12mm	
	ナット	特殊樹脂	・T80mm
支持脚	ボルト	特殊樹脂	・ゴム座厚み5mm
	ゴム座	SBR製 硬度90	
専用コンクリート釘 φ4×70mm		特殊樹脂製パッキン付 特殊鋼	

3-2 専用工具

工 具 名	用 途
K用ドライバー	床パネルのレベル調整に使用。
専用ポンチ	専用コンクリート釘、打ち込みに使用。
専用エアガン	100V5～7kg/cm ² 空気吐出量 80l/min コンプレッサーに接続し 専用コンクリート釘を打ち込む。

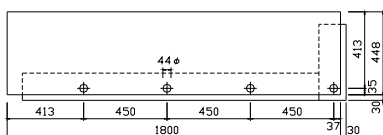
3-3 床高さ調整範囲

スラブ面からフリーフローア-TG床パネルの天端まで

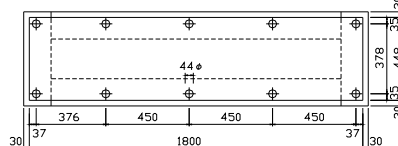
ナット	ボルト	床高さH調整範囲
80 mm	135 mm	160~222 mm
	202 mm	202~289 mm
	269 mm	269~356 mm
	336 mm	366~423 mm
	403 mm	403~490 mm
	470 mm	470~557 mm
	537 mm	537~624 mm

3-4 パネル規格

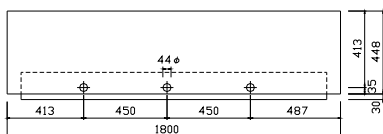
●TG-1 体育館の周囲を除く内側に使用



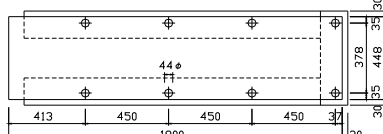
●TG-5 周囲の敷き込みの最初に使用



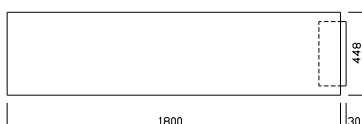
●TG-2 TG-1を敷き込んだ各列の右側の納め込み用



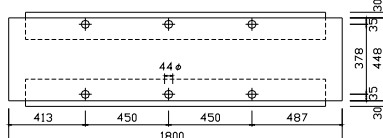
●TG-6 周囲の敷き込み用パネル



●TG-3 TG-1を敷き込んだ最後の列に使用するパネル



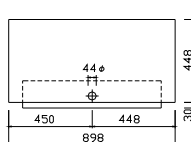
●TG-7 TG-6の最終納め込み用パネル



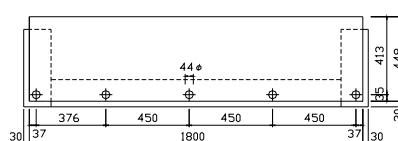
●TG-4 TG-3の右端最終納め込み用パネル



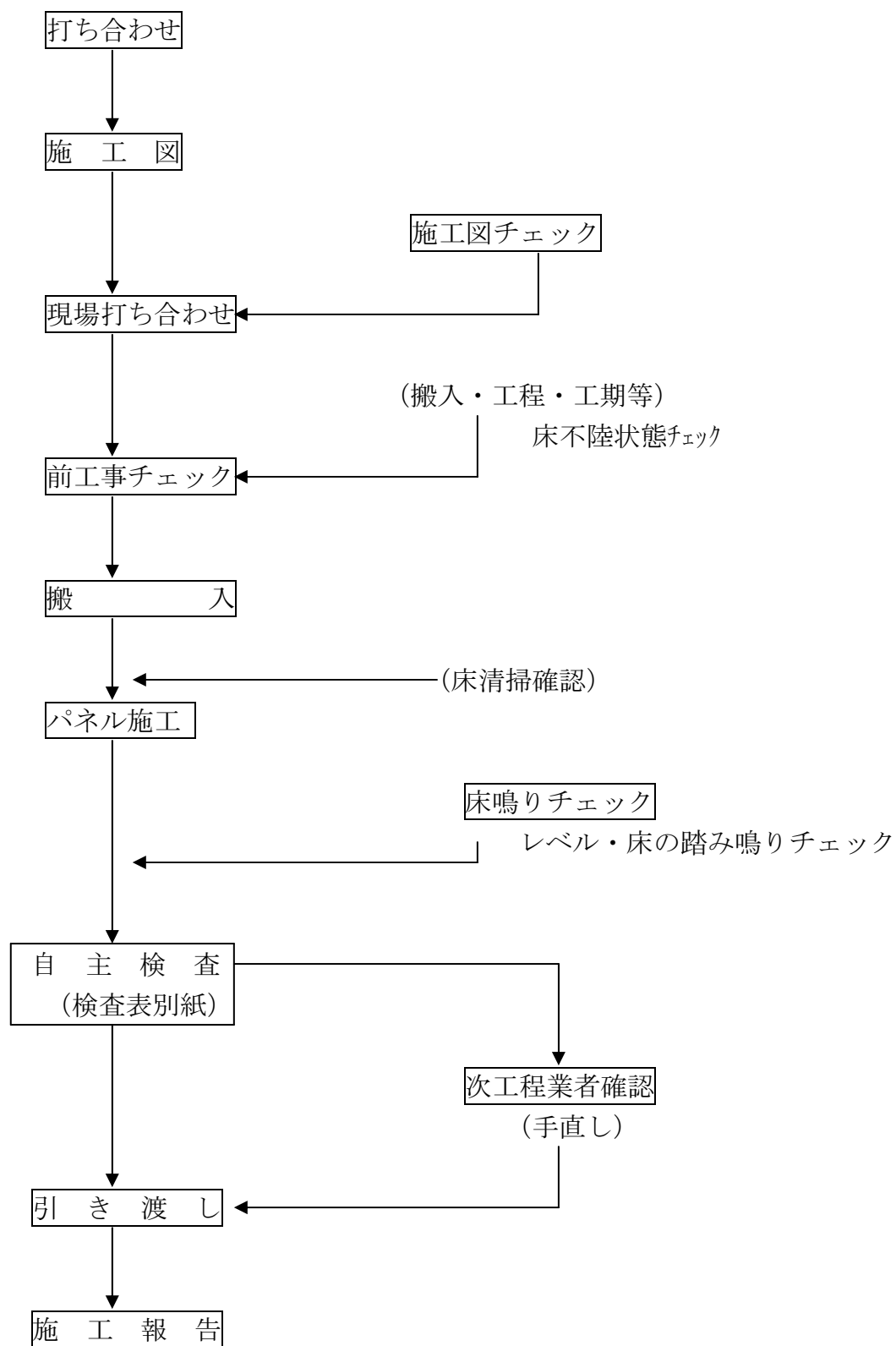
●TG-8 TG-2の施工部分の寸法が898mm以下のとき使用



●TG-9 出隅の部分に使用



4. 現場施工フローチャート



5. 施工手順

① コンクリート床面の清掃確認

- ・コンクリート床面を清掃し、極端な凹凸のある場合は修正を依頼する。

② 床高の基準墨を打つ

- ・壁面躯体に仕上げ用フローリング厚を差し引いて墨を打つ。

③ ボルトの取付け

- ・フリーフローアールボルトをパネルのナットにネジ込む。

④ フリーフローアールTG-5, TG-6 パネルの敷き込み

- ・壁面周囲に先ずフリーフローアールTG-5を敷きこむ。
- ・次にTG-6を敷き込んでいき壁面周囲の最後はTG-7を敷き込み納める。
- ・TG-5, 6, 7のジョイントは全ねじビス38mmにて300mm以内固定。
- ・ジョイント部はパネル間隙間を3mm程度とる。
- ・壁面躯体とフリーフローアールTGパネルとは15mm～30mm隙間をとる。

⑤ レベル調整

- ・壁面周囲の敷き込みが終わったら、床高の基準墨に合わせてボルトを調整してレベルを出す。

⑥ ボルトの固定

- ・ボルトを専用コンクリート釘でスラブに固定する。
- ・専用コンクリート釘はパッキン付専用コンクリート釘を使用し、ボルトの穴に落とし込み専用ポンチ又は専用エアーガンでスラブに打ち込み固定する。
- ・釘の打ち込み時、釘の曲がり等がないかを確認し不良打ち込みがあればその場で取り替える。釘の不良打ち込みは床鳴りを発生させることがありますから充分注意する。

⑦内部への敷き込み

- ・壁面周囲と同様にフリーフローア－TG－1， 2， 8を敷き込む。
- ・ジョイント部は全ねじビス 38 mmにて 300 mm以内固定。
- ・パネル間隙間は 3mm 程度とする。

⑧ 床下地施工確認

- ・床下地施工後、部屋全体を歩いてみて、釘の打ち忘れ、床鳴り、床の沈み込み、浮き上がり、段差などが無いかチェックして下さい。
* 下地完了後は重量物の仮置きはしないで下さい。

6. 施工検査表

検 査 内 容	検 査 結 果
レベルが出ているかを確認する。 (3/1000 mm以内)
壁廻り、柱廻りとの取り合いを確認する。
ボルトの調整忘れがないかを確認する。
フリーフロアの接合部への固定が正しく施工されているかを確認する。
フリーフロアの上を歩き床鳴りがないかを確認する。